

第1学年の実践

1 単元名 みんないっしょに

2 単元目標

○自分の1日の生活をふりかえり、家の人といっしょに仕事や趣味のことをする中で、家の人といっしょにしたり、自分の役割が増えたりすることの喜びを感じる。

○家の人のことや自分でできることなどが分かり、家庭における自分の役割を積極的に果たし、規則正しく健康に気をつけて生活することができる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

1年生なりのひびき合いを目指すことを考えていく上で、まずは関わり合うことを積極的に行ってきた。関わり合う前段階として、友だちの話や考えを受け入れることを意識した。その手段として、朝のスピーチでは、話し手に質問をすることを継続したり、いろいろな活動の後にクラス全体に感想を言う時間を設けたりしている。学習において、隣の友だちや同じ班の友だちと話し合ったり、活動したりすることを取り入れている。関わり合うことで、うまくいかなかったり、意見がバラバラでまとまらなかったりすることが多いが、友だちと話せたことややってみたことを誉めて励ましてきた。このような日々の活動が授業においても活かしていけるようにしてきた。本単元では、家庭での生活経験を出し合ったり、感じていることを話し合ったりすることで、自分との違いに気づくことができるようにしてきた。その際、児童の発言をみんなで認めていくように声をかけるようにした。また、みんなでいっしょに活動することで、「友だちはそんなこともできるのか。」「自分はこんなことができるよ。」という前向きな感想をもてるようにし、自分自身の生活に活かしていけるようにした。家で行ったことについては、家族からコメントをもらい、学級で共有することで喜びや達成感を広げていけるようにした。

4 単元と指導

児童にとって家庭は、自分を支え、育んでくれる家族がいるところである。しかし、児童にとってあまりにも身近であるため、その大切さに思い至らないこともある。本単元では、自分が家族とともにしていることや、家族にしてもらっていることをふりかえり、家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を進んで行うようになることを目指す。また、家庭における自分の生活を見直し、規則正しく健康に気をつけて生活しようとする積極的な生活態度を育てることも目指す。そのために、各家庭において、「自分のことは自分でする」、「手伝いをする」、「家族が喜ぶことをする」など、実際に具体的な活動や体験をすることを通して充実感を持つことができる。そして、家族の中での自分の役割に気づかせ、仕事を継続することで、家族の一員として役立っているという自信をもたせていく。

本単元は①自分の一日をふりかえる、②家の人と一緒にやってみる、③自分でできることを考え、やってみる、④感謝の気持ちを表現する、という流れで学習を進める。家族構成や家庭生活の様子は異なるので、それぞれの家庭の違いやよさを尊重し、家庭の理解と協力を得るなど、連携を図りながら学習を進めたい。

<切実な問題について>

自分自身の生活をふりかえる中で、家族の存在は欠かせない。自ずと自分を支えてくれている家族のことに目が向くであろう。家族がしてくれていることを考えたり、体験したりする中で、家族の思いや願いに気づくことができるだろう。そこで、「家族のためにできること」、「自分でできること」を考え、実践していく。自分と家族のよりよい生活のために「自分でやってみたいこと」、「家族のためにしてあげたいこと」、「続けたいこと」を児童の切実な問題として捉え、実践につなげていきたい。

<ひびき合いについて>

家庭それぞれの事情や環境には当然、違いがある。故に、友だちが「家でどんなことをしているのかな。」「自分はこんなことをしているけど、みんなはどう思うかな。」など、友だちの生活にも関心をもつであろう。本単元では、関わり合いを通して、自分の生活と友だちの生活を、互いに認めていけるようにしたいと考えている。関わり合う中で、友だちのしていることや体験したことを自分の生活にも取り入れていこうとする姿が見られるのではないかと考える。その姿をひびき合いの姿としていきたい。

単元目標

○自分の1日の生活をふりかえり、家の人といっしょに仕事や趣味のことをする中で、家の人といっしょにしたり、自分の役割が増えたりすることの喜びを感じる。
○家の人のことや自分でできることなどが分かり、家庭における自分の役割を積極的に果たし、規則正しく健康に気をつけて生活することができる。

家での自分の一日をふりかえろう ①②

1年生になって、たくさんできるようになったことがあるね
どんなことができるようになった?

ひらがなが書けるようになった
漢字が書けるようになった
計算ができるようになった
友だちと仲よくできた
クラスの仕事をできるようになった

- ・朝は自分で起きるよ
- ・着替えは自分でするけど、服選びは家の人がやるよ
- ・歯みがきは自分でできるからやってるよ
- ・みんなでご飯を食べるよ
- ・お手伝いしてるよ
- ・お風呂は兄弟で入るよ
- ・学校の支度はお家の人といっしょにやってる
- ・自分で学校に行けるようになったよ

家の人はどんな仕事をしているかな? ③④

家族へ意識を向けることで、自分
と家族の生活をよりよくしようと
する気持ちを持てるようにする。

- ・ご飯を作ってくれてる
- ・脱いだ服を洗ってくれてる
- ・遅刻しないように起こしてくれる
- ・ご飯の材料を買い物する
- ・いっしょに遊んでくれてうれしい

- ・使ったお皿を洗ってくれる
- ・洗濯ものをたたむのはいっしょにやってるよ
- ・自分の部屋の掃除をきれいに掃除してくれる
- ・宿題を教えてくれる
- ・いっぱいやってくれてるんだな

- ・洗濯物を干していた
- ・お迎えをしてくれる
- ・ゴミ捨てをしているよ
- ・お風呂の掃除をしている
- ・布団をしまっていた

家の人がみんなのために
にやっていることを考
えたり体験したりする
ことから、家の人の気
持ちを考える。

家の仕事をやってみよう ⑤(本時)⑥

家族生活が楽しくなることを
考え、実際に行う。

○洗濯物をたたんでみよう

- ・家でやったことがあるからできるよ
- ・結構難しいな
- ・こんなにたくさんできるかな
- ・きれいにたたむのは、大変だな
- ・いろんなものがあるから、たたみ方もいろいろあるんだな
- ・時間がかるよ
- ・めんどくさいな

友だちの考えを聞くことで、
自分にもできそうなことや、
やってあげたいことの幅を広
げる。

「やってみたい」、「してあげたい」、
「続けたい」

を実際の生活につなげる ⇒ 切実感

家の人のために自分でできること
を考え、実行する。

できることをやってみよう! ⑦⑧⑨

- ・お風呂掃除をしてみよう
- ・食器洗いに挑戦しよう
- ・ご飯の支度を手伝ってみよう
- ・風呂掃除やってみたいけどやりかたがわからないな

- ・兄弟の世話をしたら家の人が助かるかな
- ・お料理の手伝いをしたら喜んでくれるかな
- ・ペットの世話は自分でできるぞ
- ・布団たたみはやろう
- ・洗濯物をたたんだりしまったりするのは手伝おう
- ・自分の靴洗いは、やろうかな

- ・お母さんに喜んでもらえたよ
- ・お皿運びを上手にできたから、みんなにも見せたいな
- ・おつかいは難しそうだな
- ・新聞をとるのは続けていこう
- ・掃除はできそうだからやろうかな

自分の生活をふりかえろう ⑩⑪⑫

家族からの言葉

- ・家族って大切だな
- ・ありがとうを伝えたいな
- ・できることは続けよう

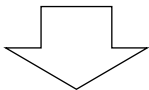
家族に手紙を書こう

家庭の中での自分の役割に
気づく。

これからの
自分の生活

6 本時について

- (1) 本時目標「洗濯物をたたむ」仕事をするを通して、自分の生活が家の人に支えられていることに気づく。
 (2) 本時展開

学習活動	・指導上の留意点 【評価】
1 学習課題を知る。 洗濯物たたみをやってみよう 2 「洗濯物をたたむ」ことについて自分の家での様子をふりかえる。 洗濯物（箱の中身） ・家ではお母さんがやってるよ。 ・いっしょにやったことがあるよ。 ・きれいにたたんだことがある。 ・自分のものはたたんだことがある ・いろいろな種類の洗濯物があるよ。 ・大きさもいろいろだね。 ・たたみ方もちがうだろうな。 ・時間がかかりそうだな。 3 グループで「洗濯物たたみ」をする。 4 感想を交流する。 ・思ったより難しかった ・大変だった ・簡単だった ・めんどくさかった ・時間がかかる ・一人でもできそうだった ・家の人はすごいな ・いろいろな物があってややこしい  家の人は家族みんなのために いろいろなことをしてくれている	・家の人のやっていることをふりかえられるようにする。 ・グループで協力して洗濯物たたみを行うことを知らせる。 ・色々な種類の洗濯物を用意する。 家の仕事に関心をもち、洗濯物たたみをしようとしている。 【関・意・態】 ・たたみ方にはいろいろあることを認め、自信を持たせる。 ・自分でやってみて、家の人のことを考えてみるようにする。 家の人が家族の生活を支えていることに気づいている。【気】

7 実践を終えて

それぞれの家での生活経験は違う。家庭環境によっても違いがある。家での仕事についても誰が何をしているか、家庭それぞれであった。児童が家でやっていることについては、「言われてしていること」と「自分からしていること」の2通りに分かれた。「家の人がやっていて当たり前」という感覚があったように感じていた。また、自分の生活には家族の支えがあることを漠然と感じている様子であった。「自分でもできそうなことはあるかな」と家での仕事を見つめたことで「自分でもできるかも。」「やってみようかな。」という思いにつながった。また、「家の人がしていることを自分もしてみたい」という思いを実践していったことで、児童の切実な問題となっていくと考える。

本時では、「洗濯物たたみ」をする活動を通して、家の人の思いに少しでも触れられればと考えた。児童は一生懸命目の前の洗濯物に向かっていったが、きれいにたたむ子、ただ箱にしまう子など、その様子は様々だった。どのようにたためば家の人の気持ちに近づけるかを、活動の前に明確にしたり、活動の途中でも児童のいい様子を広げたりするなど、友だちの様子を児童が互いに見合える場を設定すべきであったと感じている。

家での仕事を続けている様子を発表し合うことで、少しずつ「自分でもできる」という充実感を持てるようになり、「続けてみよう」という意欲につながっていった。また、家でしたことを記録し、それに対して家の人からコメントをもらうようにした。「だんだん上手になってすごいね。」「進んで家の仕事をしてくれて本当に助かりました。」など、家の人の言葉をクラスで発表し、共有することで児童の意欲が高くなっていったことは、児童同士が互いに認め合える機会となった。教室での姿だけでなく、家でいろいろな仕事に取り組んでいる児童や、これは自分の仕事と自覚して取り組んでいる児童など、自分の生活に返している様子がみられたことは、ひびき合いがあったと考えている。

家庭という児童にとって大きく、大切な存在。その中で、児童がどのように自分の生活を考えていけるかという生涯を通しての学習であった。児童が考えて実践したことに対して、教師だけでなく友だちや家の人からの言葉を受け取ることで、活動が生きたものになると考える。先に述べたように、家庭からのコメントをいただけたことで児童の意欲が高まったことは成果と考える。しかし、様々な家庭の様子があ、どのタイミングでどのような連携をすることが児童にとってベストなのか、精選していくことは課題として考えていきたい。